

授業科目名 (英文表記)	経済立地論 (Location Theories)		
単位数	1	授業形態	講義
担当教員	藤田 和史		
開講	南紀熊野サテライト (田辺市)	区分	大学院
実施日・時間	第1回 4月22日(土) 13:00~17:00	第3回 5月20日(土) 13:00~17:00	
	第2回 5月13日(土) 13:00~17:00		

【授業のねらい・概要】

この授業では、人間の経済活動とその中心である集落・都市の立地について、産業構造別、および形態別に立地の規則性に関する理論を学びます。

具体的には、テキストの輪読を通じて農業・工業・商業の各産業の立地論、そして都市・集落にかかる中心地理論について、その理論的系譜および応用分析・実態例について学んでいきます。マツカンらのテキストによる数理的なモデルにも言及しますが、極力数学的な手法は使用せずに解説することにしたと思います。

【授業計画】

第1回①

立地論の概略(ガイダンス)、立地論の考え方や基本的なターム、概念について解説します。

第1回②

農業立地 チューネンの「孤立国」を事例に、農業の一般的な立地法則について考えます。

第2回①

工業立地 ウェーバーの工業立地を事例に、工業立地の一般法則と実際について考察します。

第2回②

中心地理論1 クリスタラーの中心地理論を題材に、経済活動の中心地の立地について考えます。

第3回①

中心地理論2 レッシュの中心地理論を題材に、経済活動の中心地の立地について考えます。

第3回②

中心地理論と応用 クリスタラーとレッシュの理論的差異、現実への応用について考察します。

まとめ、レポート指示

【到達目標】

履修することで、次のことができることが目標です。

- ・ 農業・工業・商業の立地にかかる理論を説明できる。
- ・ 中心地理論を用いて、集落・都市など中心地の立地の規則性について説明できる。

【成績評価の方法】

提出されたレポート課題(80%)および各回の復習課題(20%)によって評価します。

【教科書】

初学者も多いため、下記のことをテキストとします。

富田 和暁 2006.『新版 地域と産業 経済地理学の基礎』原書房。(書籍絶版、オンデマンド版で購入可能)

【参考書・参考文献】

授業中に適宜紹介しますが、代表的なものは以下の通りです。

松原 宏編著 2013.『現代の立地論』古今書院。

マツカン, P. 著 黒田・徳永・中村訳 2008.『都市・地域の経済学』日本評論社。

鈴木 洋太郎 2009.『産業立地論』原書房。

【履修上の注意・メッセージ】

抽象的な議論もありますが、できるだけ平易に解説します。

【履修をする上で必要な事項】

南紀熊野サテライトで受講される方は対面で、それ以外の地域から参加される方は同時配信で授業を行います。受信するためにネットワーク環境(Wifi環境)をご準備ください。また、パソコンとTeams、そして念のためにZoomクライアントをご準備ください。さらに質疑応答する場合には、ハウリングが生じないようにイヤホンをご準備ください。

【授業時間外学修についての指示】

テキストの精読を求めます。また、テキストに記載される参考文献の精読も求めます。当該回の内容について、授業終了後にMoodleに提示する課題を通じて復習していただく必要があります。